

第609回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 平成31年1月度 ——

◇ 議題

<テレビ番組>

「前川清の夜もタビ好き」

<放送日時>

平成30年10月13日(土)よる11時15分～0時10分

◇ その他

2019. 1. 21

九州朝日放送株式会社

第609回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成31年1月21日(月)午後4時00分～5時15分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	野田 幸之輔
副委員長	池田 勝
委員	安恒 万記
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美
委員	鶴 利絵
委員	井手 雅春
委員	戸田 康一郎

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
取締役	笹 栗 哲 朗
取締役 総合編成局長	森 君 夫
ラジオ局長	穴 井 建 一
報道局長	白 井 賢一郎
総合編成局テレビ編成部プロデューサー	中 島 大 介
ケイ・ビー・シー映像制作部プロデューサー	福 田 重 和
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	井 上 千 秋
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松 永 俊 郎

4. 議題

- (1) テレビ番組「前川清の夜もタビ好き」

<放送日時>平成30年10月13日(土)より11時15分～0時10分

- (2) 平成31年1月・2月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
(3) 平成30年11月・12月 視聴者・聴取者応答状況の報告
(4) その他

5. 議事の概要

◎委員の意見 (概要)

委員からは、

- 今回の課題番組は「前川清の笑顔まんてんタビ好き」のスピンアウト企画として、夜の街を訪問する内容だったため、いつもより人が抱える寂しさや悲しさ、辛さを感じることができたという印象を抱いた。いろいろな方の笑顔の裏にある悲しさや辛さが伝わってくる内容であり、そうした相手の懐に入っていくことを意識せずに自然にできる前川さんのキャラクターあつての番組なのだと強く感じた。
- 前川さんの気さくで飾りっ気のない人柄や話し方が取材した現地の方々的心を解き、その雰囲気がお茶の間の視聴者を巻き込むような好循環を生んでいると感じた。前川さんの人柄の良さやユーモラスな部分は通常の「前川清の笑顔まんてんタビ好き」からも感じることができるが、今回の「夜もタビ好き」は相方がいないことで、いい意味で前川さんをより自由にし、番組を一層面白くしていると感じた。
- 前川さんは突然ふらりとお店に立ち寄っては、初めて出会った人からも自然と話を引き出し、みんなでしみりしたかと思えば、笑いも交え、最後は笑顔でお店を去っていた。改めて前川さんの人の話を聞き出す力に驚かされたし、前川さんの話の合間の呼吸や相づち、別れの時の一言「元気でね」と言いながら手を添えたりする仕草からは、相手を気遣う前川さんの人となりや人の好さを感じ取ることができた。「タビ好き」ではなく「ヒト好き」とタイトルを変えても良いのでは。
- 初めのうちはユニークな一般の方と前川さんのからみをただ笑いながら見ていたが、30年以上も前に奥様と死別した男性や、息子を事故で亡くした男性がスナックに通いお酒で悲しさを紛らわしているという話からは、そうした様々な人生模様心打たれた。
- 飲み屋街をノーアポ、ノープランでダラダラと練り歩く様子は、まるで前川さんと一緒に「次はどこへ行こうか？」と飲み屋を探して歩いているような気分になることができた。そういう意味で、「夜もタビ好き」は、視聴者もお酒を飲みながら夜に見れば更に親近感が増すと思ったし、よる11時15分からの放送時間の設定はと絶妙だったと思う。
- 近年の「地域創生」ブームで、やたらとインバウンドや地域活性化等、地域の魅力の発掘・発信とよく言われるが、そこへ無理やり持っていこうとしない番組コンセプトは大変良いと思った。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 番組の内容から「様々な人生が交錯する夜のスナック」とのナレーションはすごく印象的だったが、時折「間延び」感を感じることもあった。前川さんのトークのスピードと同じくらいの早さのナレーションでもいいのかと感じた。
- 「旅番組」なのに、青い空や青い海、ゴーヤチャンプルーという沖縄情報は全くなく、諸見百軒通りでの出会いや人生ドラマという「ごちそう」のみに的を絞る番組の構成はいい意味で潔さを感じたが、番組を長く続けていくためには、もう少し地域性を紹介する必要もあるのではないかと感じた。沖縄の飲食店が出てくるのであれば、お酒や食べ物の情報が少しくらい紹介されてもよいのではないかと思った。
- お昼放送の「前川清の笑顔まんてんタビ好き」とは異なり、「夜もタビ好き」は夜の街で出会った人たちとのコミュニケーションを映し出すため、お酒に酔った方に失言等があった場合、トラブル等に発展しないのか心配した。

などの評価や意見を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- ナレーションの「間延び」感に関するご意見があったが、番組の立ち上げ当初から様々な読み方を試み、番組らしさや聞きやすさ等を模索する中で、いまの少しゆっくりとしたナレーションに至っている。
- 「夜もタビ好き」に限らず、レギュラー番組の「前川清の笑顔まんてんタビ好き」でも、取材をさせて頂いた対象者に放送局名や番組の放送時間、連絡先等を明記した名刺を配布している。また、ご出演いただいた方の連絡先もお尋ねし、後日、必ず電話連絡を入れ、撮影させていただいたシーンを放送で使用しても構わないか最終的な判断を仰いでいる。加えて、夜の様子を取材した今回の「夜もタビ好き」では、取材対象者に改めて確認を行い、トラブル回避に最大限の配慮をした。
- 「夜もタビ好き」は前川さんの企画立案によるもの。前川さんがより自然体で取材に挑めるよう、スタッフの人数は昼間よりも絞り込んでいる。「旅番組」だからもう少し情報を盛り込んだ方がよいのではないかとの意見もあったが、前川さんの「人が主役」「情報は重要ではない」との意向もあり、制作スタッフはそうした前川さんの意図を汲み、例えば現地を連想させるようなBGMを使用したり、わずかな風景のカットを忍び込ませるようにして、地域感を演出できるよう工夫している。

などの説明をしました。